

東北海区沿岸水温予報(2009年)

海域	経過 (4~6月)	現況(7月上旬~ 7月下旬)	見通し (9~11月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水研発表表)	定地水温(平年差) 4月:平年並~やや高め 5月:平年並~やや高め 6月:やや低め~平年並み	8月分日本海定線観測結果 各層水温は、0m層で低め、50m層ではやや高め、100m層では平年並み、対馬暖流の勢力は平年並みである。 定地水温(平年差) 7月第1半旬:平年並み 7月第2半旬:平年並み 7月第3判旬:平年並み 7月第4判旬:やや低め 7月第5判旬:平年並み	津軽暖流域の水温は平年並みで推移する。 津軽暖流の東方への張り出しは平年並み~やや東偏する。	6月分の日本海定線観測結果で、50・100m層は高めに推移し、対馬暖流の勢力としては、強めであったが、8月分の日本海定線観測結果では、50層はやや高め、100m層は平年並みとなり、対馬暖流の勢力としては平年並みになっている。 定地水温(平年差) 7月以降、平年並みで推移している。	特になし
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水研発表表)	4月 表面:県南10海里内で平年並みのほか、やや高い~極めて高い。 特に、県南20海里以東及び県中南部5海里以東、県中北部10海里、40~50海里で極めて高い。 100m深:県南40海里以東、県中南部30海里、県中北部50海里以東で極めて高い~高いほかは、やや高い~平年並み。 5月 表面:距岸10海里内及び県北部で平年並み~やや高めのほか、やや高め~極めて高い。特に、県中北部、県中南部40海里以東で極めて高い。 100m深:距岸10海里内及び県北部、県中北部、中南部20~30海里で平年並み~やや高め。県中北部、中南部40海里以東、県南部20海里以東でやや高め~高め。 6月 表面:県北部沖合50海里から県南部沖合30海里以東にかけてやや高め~高め、県北部沖合10、40海里及び県南部沖合20海里付近でやや低め~低めのほかは、平年並となっている。 100m深:県北部10海里以内はやや低め~平年並み。県中北部から県南部10海里以内は平年並み~やや高め。県北部沖合10~40海里でやや低め、県中北部20海里から県南部20海里にかけてやや低め、県中北部沖合40海里以東、県中南部30海里以東、県南部40海里以東でやや高め~高め。	7月 表面:県北部0~40海里、県中北部0~5海里、県中南部0~10海里、県南部0~40海里でやや高い~高い。県中北部50海里、県中南部40~50海里でやや低いほかは平年並。 100m深:県中北部5海里及び20~40海里、県中南部5~10海里、県南部5~20海里でやや高い~高い。県北部40~50海里、県中北部50海里、県中南部30~50海里、県南部40海里でやや低い。他は平年並。	平年並と予測 なお、津軽暖流の東への張り出しが強い場合は、県北部0~30海里でやや高くなる。	岩手県100m深水温予測によれば8月は全海域で平年並の見通し。 FRA-JCOPEによると9月の津軽暖流の東への張り出しが平年並~やや強勢と予測されている。	特になし
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水研発表表)	4月:『沿岸海域では親潮系冷水の影響を受ける一方、沖合海域を中心に昇温傾向』 表面水温は東経142°30'付近で7~12台となり、100m深では沖合海域において5~11台になった。平年との比較では、表面水温、100m深水温とも雄勝沖合(北緯38°30'ライン)から亘理沖合(北緯38°ライン)にかけて、沿岸海域では平年並みかやや高め、東経142°30'付近の海域では5~6高めとなった。 5月:『沿岸から沖合海域において暖水の影響大』 表面水温のうち東経142°30'以西の沿岸海域は11~17台、東経142°30'以東の沖合海域では15~17台となった。100m深水温については8~11台となった。平年との比較では表面水温は5~6高く、100m深については1~3高く、特に東経142°以東の海域では極めて高い水温が観測された。 6月:『142°E~142°30'E付近(100m深水温)で冷水の影響が見られ、その他海域は平年並み』 表面水温のうち東経142°30'以西の海域では、11~17台、東経142°30'以東の海域は16~17台であった。100m深水温については、東経142°~142°30'の海域で5~8台となり、平年よりも1~2低く、平年に比べやや低い~低いとなった。その他海域ではほぼ平年並みとなった。	7月:『142°E以東の沖合海域(100m深水温)で暖水の影響が強い』 東経142°30'以西の表面水温は、前月よりも3~9升温し、15~23台で、平年よりも約1~3高くなった。また、沖合海域(東経142°30'以東)の表面水温は、前月よりも3~4升温し、20~21台で、平年より約2~3高くなった。 100m深水温については、本県沿岸海域(東経142°30'以西)では、前月より概ね1~6升温し、9~11台となり、平年より1~4高くなった。沖合海域(東経142°30'以東)では、平年よりも概ね1~4高く、北緯38°30'~39°の海域では平年より約4高くなった。	東経142°以西の沿岸海域では「平年並み」で推移する。東経142°以東の沖合海域では、「平年並み~極めて低い」で推移する。	『沿岸定線データを用いた宮城県沿岸海域の海況予測モデル』によって海況予測を実施した。(2009年7月について、類似年は1992年であった。)	特になし。

<p>常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試 発表)</p>	<p>4月: 親潮系冷水が本県北部~中部海域の40~50海里付近を南下した。黒潮系暖水は、南部沖合域を中心に沿岸域にかけて広く波及した。本県沖50海里以内における100m水温は平年より低め~高めであった。 5月: 黒潮系暖水が沖合域から本県海域に波及した。一方、親潮系冷水の南下傾向は前月より弱く、沿岸域にみられた。本県沖50海里以内における100m水温は平年よりやや低め~高めであった。 6月: 前月に続き、黒潮系暖水の波及が本県南部と沖合域から波及した。また、本県沖合30~60海里には親潮系冷水の弱い南下がみられた。本県沖50海里以内における100m水温は平年よりやや低め~やや高めであった。</p>	<p>6月に続き沖合域からの黒潮系暖水の波及がみられる。また、親潮系冷水の南下は弱く、本県南部の沿岸域にみられる。本県沖50海里以内における100m水温は平年並み~やや高めである。</p>	<p>現状の南部海域を中心とした低温傾向は、親潮系冷水の一時的な波及に伴い、やや強まるがその影響は弱い。8月から10月の期間では親潮系冷水、黒潮系暖水の影響が弱い平年どおりの海況となり、沿岸水温はほぼ平年並みで推移する。</p>	<p>6月以降、親潮系冷水と黒潮系暖水の波及はともに弱く、7月現在までこの傾向が継続している。本県周辺の100m水温データを用いた自己回帰予測でも期間を通して親潮系冷水と黒潮系暖水の波及は弱いと予測された。</p>	<p>特になし。</p>
<p>常磐南部 ~鹿島灘 (茨城県沿岸; 茨城水試 発表)</p>	<p>4月: 沿岸域に暖水渦、その沖には冷水渦が形成された。そのため沿岸域の水温は高めとなった。黒潮は沿岸傾向で推移していたが下旬に離岸した。 表面水温: 15 ~ 20 平年偏差: 「やや高い」~「極めて高い」 100m深水温: 7 ~ 18 平年偏差: 「低い」~「極めて高い」 5月: 上旬に、常磐北部海域に分布する海水が本県北部沿岸域に差込み、前月に比べて降温した。一方でその沖合域では黒潮系暖水が沿岸方向へ張り出して、両者の間に強い潮目が形成された。中下旬にごく沿岸域の表層付近で急激な水温の低下現象がみられた()。また、沖合域からの暖水の張り出しが弱まり、強い潮目は解消した。黒潮は上旬に接岸し、その傾向を維持した。 表面水温: 14 ~ 22 平年偏差: 「平年並み」~「極めて高い」 100m深水温: 6 ~ 19 平年偏差: 「低い」~「極めて高い」 6月: 常磐北部海域から北部海域を中心にして混合水が分布した。ごく沿岸の水温は、亜表層域(水深0~50m付近)で前月に比べて大きく昇温し、平年と比べて高め基調となった。一方で、前月まで暖水の分布した沖合域や南部海域では、前月に比べて大きく降温し、平年と比べて低め基調となった(南部沖合域を除く)。黒潮は上旬に接岸傾向、下旬にやや離岸した。 表面水温: 15 ~ 22 平年偏差: 「やや低い」~「高い」 100m深水温: 7 ~ 18 平年偏差: 「やや低い」~「極めて高い」 水温及び平年偏差は月の上旬に実施する海洋観測結果による。</p>	<p>上旬に、常磐北部海域から北部海域を中心にして混合水が分布した。海面と海面下との水温差が大きい躍層が形成された。前月と比べて概ね降温し、海面~水深100mを中心にして低め基調~平年並みとなった。下旬にかけては黒潮系暖水の波及は弱めで推移している模様。 表面水温: 15 ~ 23 平年偏差: 「低い」~「高い」 100m深水温: 6 ~ 20 平年偏差: 「低い」~「高い」 水温及び平年偏差は月の上旬に実施する海洋観測結果による。</p>	<p>概ね「平年並み」で推移する。</p>	<p>統計的な水温予測モデルによれば9月は平年並みで推移すると予測された。 黒潮流路が本県沖を大きく北上する年は、本県海域の水温が上昇する傾向がみられる。Fra-jcopeシステムの結果では、黒潮流路の大きな北上は予測されていないことから、持続的な著しい昇温が見られる可能性は低いと考えられる。 Fra-jcopeシステムによれば親潮第1分枝の張り出しはかなり北偏~平年並みと予測されていることから、強い親潮系冷水の南下はなく、持続的な著しい降温が見られる可能性は低いと考えられる。</p>	<p>特になし</p>

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部~鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10~70海里			
極めて高い(2.5%)	+2.4 ~	+4.0 ~	+6.0 ~	+2.4 ~	+4.0 ~	+4.0 ~
高い(7.5%)	+1.6~+2.3	+2.5~+3.9	4.0~+5.9	+1.6~+2.3	+2.5~+3.9	+2.5~+3.9
やや高い(20%)	+0.7~+1.5	+1.0~+2.4	1.5~+3.9	+0.7~+1.5	+1.0~+2.4	+1.0~+2.4
平年並み(40%)	+0.6~-0.6	+0.9~-0.9	1.4~-1.4	+0.6~-0.6	+0.9~-0.9	+0.9~-0.9
やや低い(20%)	-0.7~-1.5	-1.0~-2.4	1.5~-3.9	-0.7~-1.5	-1.0~-2.4	-1.0~-2.4
低い(7.5%)	-1.6~-2.3	-2.5~-3.9	4.0~-5.9	-1.6~-2.3	-2.5~-3.9	-2.5~-3.9
極めて低い(2.5%)	-2.4 ~	-4.0 ~	-6.0 ~	-2.4 ~	-4.0 ~	-4.0 ~